

製品名: MMP-11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13975**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	MMP11
別名	MMP11; STMY3; Stromelysin-3; SL-3; ST3; Matrix metalloproteinase-11; MMP-11
遺伝子 ID	4320.0
SwissProt ID	P24347
免疫原	抗血清はヒト MMP-11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 61-110

背景

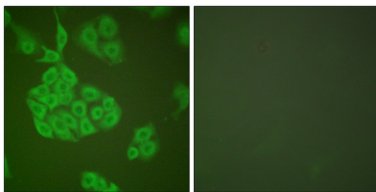
マトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) ファミリーのタンパク質は、胚発生、生殖、組織リモデリングといった正常な生理学的プロセス、ならびに関節炎や転移といった疾患プロセスにおいて、細胞外マトリックスの分解に関与しています。ほとんどの MMP は

不活性なプロタンパク質として分泌され、細胞外プロテアーゼによって切断されると活性化されます。しかし、この遺伝子によってコードされる酵素は、恒常的な分泌経路において、細胞内でフルリンによって活性化されます。また、他の MMP とは異なり、この酵素は α 1-プロテアーゼインヒビターを切断しますが、細胞外マトリックスの構造タンパク質を弱く分解します。 [RefSeq 提供、2008年7月], 補因子: サブユニットあたり1個のカルシウムイオンを結合する。 , 補因子: サブユニットあたり2個の亜鉛イオンを結合する。 , ドメイン: システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンと結合し、酵素を阻害する。 活性化ペプチドの放出により亜鉛イオンからシステインが解離し、酵素が活性化される。 , 機能: 上皮性悪性腫瘍の進行に重要な役割を果たす可能性がある。 , PTM: 前駆体はフルリンエンドペプチダーゼによって切断される。 , 類似性: ペプチダーゼ M10A ファミリーに属する。 , 類似性: 4つのヘモペキシン様ドメインを含む。 , 組織特異性: 乳癌の間質細胞に特異的に発現する。 ,

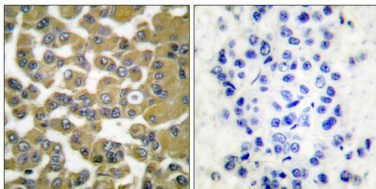
研究分野

血管新生

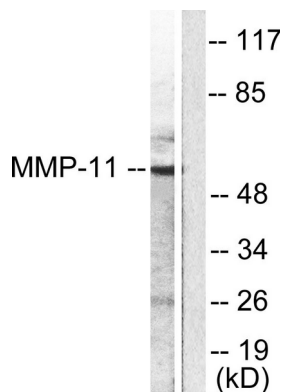
画像データ



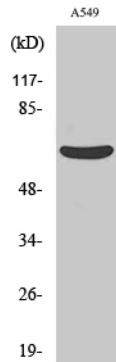
MMP-11抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



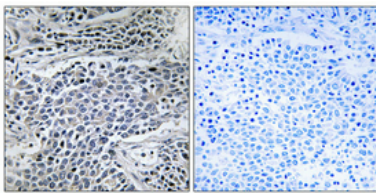
MMP-11抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像。



MMP-11抗体を用いたA549細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロックされている。



1: 500 に希釈した MMP-11 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。